

## 成東地区白幡八幡神社のお竜頭の舞

**秋**には、市内にたくさんの行事や催し物が行われています。収穫祭をはじめ、伝承による神事など各地域の神社の祭礼がおこなわれ、地域に根ざした伝承文化が古くから引き継がれています。11月広報では、獅子舞について触れましたので第2弾としてお竜頭の舞について紹介しましょう。

白幡八幡神社の年中行事の一つであるお竜頭の舞の発祥は不明ですが古文書によると1256年(建長8年)6月に御



衣装をつける前の  
水垢離の儀

神木が枯れ、大風との告知があり、神前に氏子たちが祈願した処、氏子一同無事であったことや1266年(文永3年)春から疫病が流行し、当時のある人物によ

りお竜頭を供え祈願したところ、病から救われたと言われています。やがてお竜頭の疫病引きと呼ばれるようになり、各村から要請があれば遠くの村まで出向き近



お竜頭の舞

年まで続けられたそうです。

**お**竜頭の舞は一般的には括弧舞、または括弧獅子などと呼ばれ、三頭の「男竜」・「子竜」・「女竜」を青年達が舞い、露払いとして「弓」・「旗」と呼ばれる2名が先導します。

白幡八幡神社のお竜頭は十二番・四方固め・弓くぐり・橋がかりの4種類が、伝えられています。

十二番は、十二種の舞からなり終始三頭が揃って舞います。中でも狂いの舞は男竜と子竜との争いが見所となっています。

四方固めは、三本の御幣を立て子竜・男竜・女竜の順で御幣に近づき、その後御幣を頂く様子が見所です。

弓くぐりは、金の御幣を付けた弓を立て、その様子がこうこうしくなかなか近づけず、遠巻きに舞い、やがて弓で遊び、後半は縄を使い遊び、縄をくぐる様子が見所となります。

橋がかりは、四方固め同様三本の御幣を頂きに行く舞ですが、手前にごさなどで作られた橋があり、男竜と子竜は頂くことができますが、女竜は頂くことができない。残った御幣を男竜と子竜が奪い合う争いが見所となります。

しかし、現在では橋がかりの舞は後継者不足の問題などによりここ数年舞われていないそうです。

これらの舞は、今年から旧暦の9月9日過ぎの最初の日曜日になり、今回は10月21日(日)に行われました。今年度は終わりましたが、来年度は激しい括弧舞を是非ご覧ください。

お問い合わせは生涯学習課へ